

一輪の花



先日、4年生の教室に行くと、国語で「一つの花」という物語を学習していました。戦争に行くことになった父親が残していく幼い娘に駅の片隅に忘れられていたように咲いていた1輪のコスモスに願いを託して渡すというお話です。随分前、私自身が4年生の担任をした頃から国語の教科書にあった話です。

南が丘小学校の児童は教室の落とし物が全体的には少なく、家庭・地域の教育のおかげであると感じています。

しかしながら、市内の多くの小学校では子どもたちの落とし物の多さ、給食の残食の問題に悩まされている現実があります。

「衣食あまりて礼節を忘れ、物多すぎて、平和に甘えて心すさぶ」。まさに現代の世の中にはこの言葉どおりのような気がしま

す。物が多すぎてなくなってもわからないのです。かの千利休が豊臣秀吉を茶室に招いたときに朝顔の花一輪を床の間に飾って延々と秀吉を待たせたと言われています。待たせに待たせてから、名人芸でお茶をたてたという話があります。そのお茶はきっと秀吉を感動させたことでしょう。これは利休の見事な演出だったのだと思います。ある人が「現代は欠乏することが欠乏している」と言っているのを聞きました。今の子どもたちに必要なことはこのことなのかもしれません。我慢させるからこそ、一輪の花の美しさ（ものの本質）を感じとれたりするのです。ものごとのありがたさがわかるのです。

現代の世の中であって、なかなか“あえて我慢させる”ことの難しさはあると思いますが、子どもたちには、食べ物だけでなく、いろいろなものの有難さを理解してほしいなあと思います。



異常な気温…

近年、梅雨が梅雨らしくなく、豪雨が長時間続いたり、雨が上がると異常な気温になったり…。

昨年は梅雨がほとんどなく6月下旬からは異常な気温の日が続きました。私は小学生1年生の時、夏休みの自由研究で40日間気温を測り続けたことがあります。ほとんどが28～29℃で本当に暑い日でも31～32℃程度だったと記憶しています。ところが今は、運動場の気温も時間帯によっては35℃を示すこともあり驚かされます。この気温ですから、さすがに20分休み・昼休みの運動場での遊びは日によっては禁止せざるを得ず、残念に思うところです。ある日、熱中症指数を運動場で計測していると1年生の子から「校長先生、おにごっこしよ」と声を掛けられました。じゃんけんをして私が鬼となり、さあ追いかけてやっていると、3年生の子どもたちから「校長先生、おにごっこしよ」と声をかけられました。3年生の方も鬼になってしまい、同時に1年生と3年生を追いかけるということになりました。しかし、子どもたちがせっかく声をかけてくれたのに「またね」とか「今日は0年生とやっているから」と言えば、その子の表情をくもらせてしまうと思いました。子どもたちの多くは運動場をところ狭しと走り回っています。(ですから、南ヶ丘小の運動場には草が生えていません。)最近、少し湿度も上がってきました。子どもたちが熱中症にならないためにも十分な睡眠や朝食の摂取などご家庭におきましてもご配慮をお願いします。